

老年代の Procera コーピング + Vintage AL の基本築盛(大島)

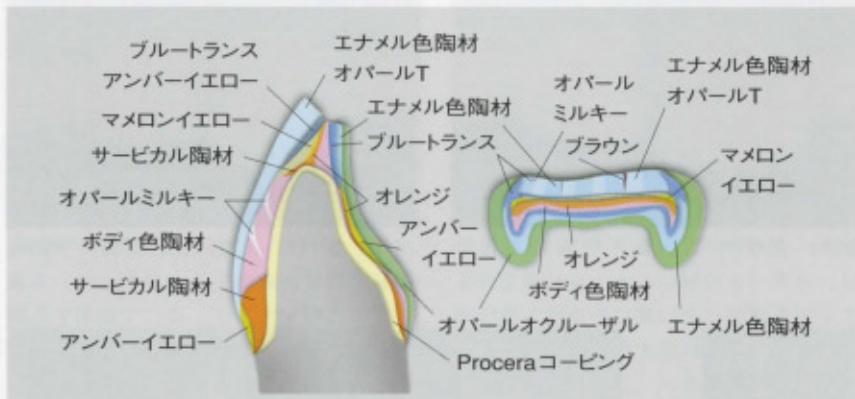


図124 老年代基本築盛の築盛図解。



図125～128 オペークライナーとステインを用いたコーピングのメイクアップ。

125|126

図125 オペークライナーの塗布。

図126 オペークライナーの二次焼成前。



図127 ステインによるオペークメイクアップ。

図128 築盛前準備終了。

図129～131 基本色 A3.5。



図128 オペークデンティン陶材(OD root A+AC)を歯頸部1/3に築盛する。

図129 デンティン陶材(A3.5B)にて解剖学的形態を回復する。



図130 近遠心隣接部をカットバックする。

図132～135 天然歯の三面構造を考慮した唇面のカットバック。



132|133

図132 切端部1/3をカットバックする。

図133 唇舌的カットバック量は、隣接同名歯の露出象牙質の位置を参照する。

図134 クラウンカントゥアを隣接に調和させる。

図135 齒頸部1/3をカットバックする。



134|135

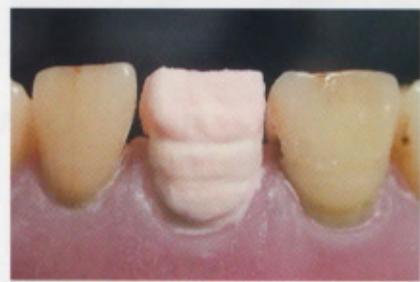
図136～139 白色帶状構造の付与。



136|137

図136 後の表面性状に調和するようカットバックを行う。

図137 カットバックを行った溝に挟み込むようOpal MIを築盛する。



138|139

図138 図136と同様に、Opal MIを築盛する。

図139 デンティン形態を再形成する。



140|141

図140 切端部1/3を垂直にカットする。

図141 切端の位置は、露出象牙質の口蓋側壁の位置を参照。



142|143

図142 オレンジを0.3mmを目安に薄く築盛する。

図143 オレンジにて、露出象牙質の着色。



図144 MYにて、近遠心マメロン構造の石灰化。

図145 象牙形態の再形成。ODにて、境界線のぼかし。

図146 デンティンにて、象牙形態の再形成。

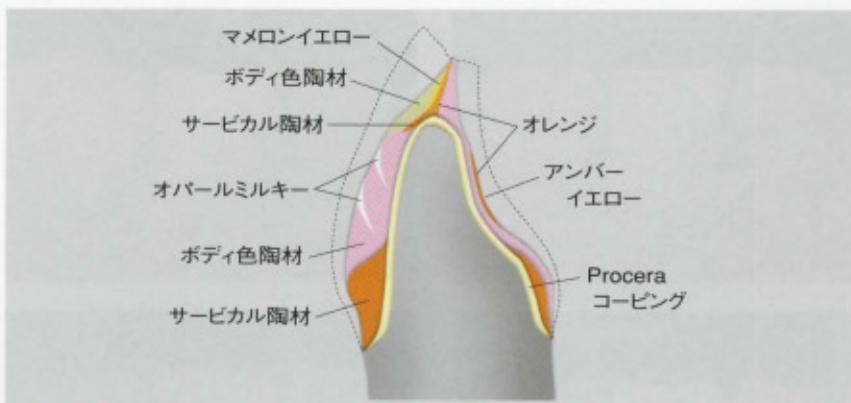


図147 築盛イメージ図。



図148～150 エナメル質境界層の着色の表現法。図148：Opal 59にて両隣接に築盛。図149、150：エナメル象牙境界の着色をBT、Opal AM-Yで表現。

148|149|150



図151～153 両隣接の透明度。図151：両隣接に透明感を求めるため、BTを築盛。図152：斜め側方面観。図153：咬合面観。

151|152|153



図154～156 クラックラインの築盛。図154：コントラスト比を創造するため、BTの内方にOpal 59を築盛。図155：外方に向かってクラックラインの影を出すため、BTを築盛。図156：内壁にクラックライン(Opal MI)を築盛。

154|155|156



図157～159 ヘアーラインの築盛。図157：Opal 59とOpal 59+Opal T(1:1)を交互に築盛する。図158：内壁にブラウン(ステイン)を築盛し、ヘアーラインを表現する。図159：唇側部築盛完成。

157|158|159



図165、166 両隣接の明度を上げる。図165：両隣接に明度を高めるため、Opal OCを築盛。図166：CEJ部をオレンジ(イフェクト陶材)とブラウン(ステイン)で表現する。

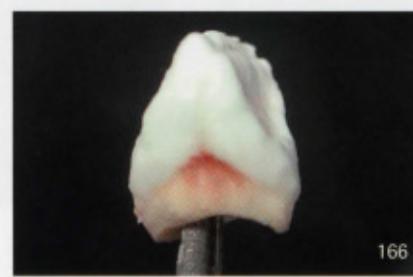


図167、168 図167：歯冠部を切断し、切断面外側にBT、内側面にクラックラインの場合はOpal MI、ヘアーラインであればブラウン(ステイン)を築盛。図168：軽くコンデンスを行いながら手指にて圧接し、歯冠部を再修復する。



図169 焼成後：唇側面観。
図170 焃成後：咬合面側。



図171 形態修整。

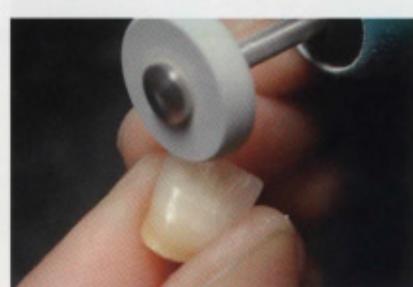


図172 Cerawhite(Vivident社)を用い、表面粗研磨を行う。

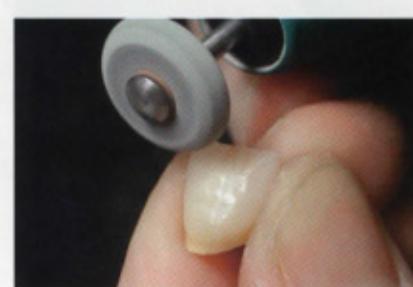


図173 シリコーンホイール/PB8(松風)を使用し、表面研磨を行う。

図174～181 微細な表面性状の付与。フィッシャーカーバ(松風)を用い、エアタービン(松風)にて行う。



図174 CEJ の付与。



図175 切端部のチップを表現する。



図176 クラックライン、ヘアーラインの築盛部を確認しながら、ヒビ割れを表現する。



図177 ヒビ割れの表現。



図178、179 露出象牙質を表現する。



178|179

180|181

図180 グレーズ焼成後の後研磨。シリコンホイール /PB8(松風)を使用。

図181 フェルトホイールにデュラボリッシュ・ダイヤを塗布し、艶出し研磨を行う。

図182～185 完成。

182|183

図182 唇側面観。

図183 舌側面観。

184|185

図184 サンプル模型上の唇側面観。

図185 サンプル模型上の咬合面観。

